

令和5年度第4回千早赤阪村地域公共交通協議会 議事要旨

日時	令和5年1月25日(木) 15時00分から16時00分
場所	くすのきホール2階第2会議室
出席者	稲山委員、猪井委員、野谷委員(藤原氏代理出席)、坂部委員、坂本委員、安達委員、浦野委員、川邊委員、井関委員、内田委員、中村委員、鬼追委員(野村氏代理出席)、伊東委員(安尾氏代理出席)
欠席者	小川委員、高平委員
事務局	産業建設部都市整備課 菊井、松澤、矢部、井上
議題	1. 千早赤阪村地域公共交通計画について 2. 地域公共交通調査事業の事業評価について 3. 千早赤阪村地域公共交通利用料助成事業について
報告	1. 千早赤阪村コミュニティバス運行状況について
資料	(資料1) 千早赤阪村地域公共交通計画について (資料2) 地域公共交通調査事業の事業評価について (資料3) 千早赤阪村地域公共交通利用料助成事業について (資料4) 千早赤阪村コミュニティバス運行状況について

会議録(要旨)

(1)議題1(千早赤阪村地域公共交通計画について)

事務局 (資料1について説明)

委員 近年、物価高騰が続くなか、課題においてバスの料金体系の検討とあるが、どの程度の金額が適正なバス運賃だと考えているのか。

事務局 金剛バス廃止後、限られた時間の中で4市町村が連携して新たにコミュニティバスを運行することができたが、運賃については金剛バスの料金体系を継承して同等かそれ以下で運行を行っている。特に、本村が運行する千早赤阪村立中学校前から金剛登山口間の料金については乗継の関係もあり、かなり安くなっている。今後、予定している利用実態調査の結果等を踏まえ、適切な料金体系について検討していきたい。

会長 議題1について、この方針で検討を進めていくことで異議はないか。

委員 (異議なしの声)

(2)議題2(地域公共交通調査事業の事業評価について)

事務局 (資料2について説明)

会長 事業実施の適切性において、「事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施される見込み」とあるが、事業とは何か。

事務局 基礎調査・分析や計画策定などの補助対象に位置付けられた評価対象事業のことである。

副会長 資料2、近畿様式3ページの課題には個別具体的な表現で記載されている。一方、その対応方針は大筋の方向性を示しており、文書表現の整合性をとったほうよい。

事務局 課題への対応方針が求められている項目であるため、対応方針に示す表現にあわせる。

委員 近畿様式1ページ目の「公共交通ネットワークのイメージ図」について、「別添図面」としているが、別添とせず、この様式の枠の中に掲載して欲しい。

事務局 修正する。

会長 近畿様式に該当がない項目等は、空欄とはせずに、該当のないことが分かるようにしておくこと。また、今後、この事業評価はどのように進められるのか。

事務局 空欄に斜線を入れるなど、該当のないことが分かるようにする。また、この事業評価は一次評価として本協議会において自己評価を行った上で、近畿運輸局に提出し二次評価をいただくものである。

会長 議題2について、この内容をベースに手続きを進めていくことで異議はないか。

委員 (異議なしの声)

(3) 議題3 (千早赤阪村地域公共交通利用料助成事業について)

事務局 (資料3について説明)

副会長 交通系ICの対応は費用が非常に高額となるので導入は難しいかもしれない。QRコード決済など利用可能なキャッシュレス化に向けた検討はよい。

事務局 ご指摘の通り、交通系ICの導入には費用がかかることは承知しているが、利用者などへの説明のためにも交通系ICも含め検討したい。

会長 補足であるが、当該事業はタクシー利用のみを対象として500円券×24枚のチケットを配布することから始まった。その後、路線バスも助成対象としたが、バスの場合は利用区間によっては500円未満の区間もあるため、プリペイドカードの「なっち」にチャージして利用されていた。これが本当に適切な制度の姿なのかという課題がある。

現在、村が運営するバスでは助成金が使えない状況になっており、今後、助成金を使えるようにするのか、それとも制度を廃止するのが論点となる。

事務局 今後実施する実態調査の結果も踏まえ、村民ニーズに対応できるよう抜本的な改正を検討していきたい。

会長 議題3について、この方針で検討を進めていくことで異議はないか。

委員 (異議なしの声)

(4) 報告 千早赤阪村コミュニティバス運行状況について

事務局 (資料4について説明)

会長 参考に、これまでの千早赤阪村コミュニティバスの年換算利用者数は約10万3千人となっており、金剛バスの令和4年度利用者数が約13万2百人であるため、7割強の実績となっている。便数も7割程度となっているため、思ったよりも減っていない

いと感じている。

事務局

この実績は富田林駅からの利用者も含んでいるため、村内だけの利用者数ではないことに留意していただきたい。今後も4市町村広域協議会とも連携し、利用状況を把握し、利用促進を図りながら持続可能な運行に努めたい。

以上